

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター くれよん		
○保護者評価実施期間	令和 7年 11月 27日		～ 令和 7年 12月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46名	(回答者数) 43名
○従業者評価実施期間	令和 7年 11月 27日		～ 令和 7年 12月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数) 25名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間を清潔に保ち、子どもたちが心地よく過ごせる環境設定を行い、維持している。	毎日の療育後にそれぞれの担当の箇所を一齐に清掃し、毎日清潔な空間を保っている。掃除箇所や物に対して洗剤やアルコール消毒を変え、子どもたちが清潔かつ設備の安全に使い続ける様に心がけている。	現状を維持し続けていけるよう努めていく。
2	手厚い支援体制を提供している。	クラス担任を中心に、子どもたちと個々の関わりを持ち、子どもたちの育ちを支えられるように支援している。	子どもたち一人一人の課題や育ちをよりの確に捉え、日々の支援をより充実していけるよう、臨床心理士による研修やケース会議を充実していく。
3	保護者に向けての交流会・勉強会の充実している。	臨床心理士・作業療法士・他事業所職員・先輩ママやパパ等、様々な立場の方から講習や研修を定期的に行い、子どもの発達理解や保護者の交流を持てるよう取り組んでいる。	保護者への相談援助のスキルを持てるよう、保護者理解を促す研修を行う。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域園や小学校との定期的な交流。	保護者のアンケート結果から要望はほぼ無いが、地域で過ごすビジョンが描けるように地域交流の機会を持ちたい。	保護者の中には地域とのつながりを持つことに難しさを感じておられる為、そのきっかけや前向きな思いが持てるよう、架橋になれるよう支援していく。
2	職員一人一人に児童発達支援ガイドラインが熟知できていない。	毎年、児童発達支援ガイドラインについての説明や理解を促すが職員から理解が難しいとの声が上がります。	個々の職員に対して児童発達支援ガイドラインに基づく支援が行えるよう、理解に向けた研修を行っていく。
3			